

2024 年度 事業報告書

学校法人名 学校法人 国際文化アカデミー

学校法人所在地 東京都豊島区巢鴨3丁目2番12号

2024 年度 学校運営報告

学校法人 国際文化アカデミー

1. 総 括

今年度は中期経営計画「JTC Re-Born 計画 2028」の初年度として、学校運営計画において「固定観念や過去の経験則からの脱却を図り、様々な変化に対応し、社会からの信頼と支持を取り戻す」ことをあるべき姿と定め、基本方針として「バックキャスティングとデジタル思考に基づく学校運営の徹底」に努めました。具体的には、学校としてのあるべき姿の実現にむけた抜本的な3つの改革（学生募集改革、カリキュラム改革、キャリア支援改革）と魅力あるブランディングを推進するため、経営層自らが牽引する「カレッジ再生」と「カレッジ価値向上」をテーマにした組織横断の2大プロジェクトを立ち上げるとともに、各業務ラインにおいても「戦略方針」と「重点課題」を明確にし、教職員が一丸となった取組みを推進しました。

学校運営としては、4月に新たな1年生40名（日本人20名、留学生20名）を迎え、2年生26名（日本人23名、留学生3名）との合計66名でスタートし、依然として極めて少ない学生数に対応する行事・学外活動を実施し、きめ細かな教育活動に努めました。

就職活動につきましては、ツーリズム業界での顕著な人材不足により、引き続き採用環境が良好な中、JTBグループと業界各社からの求人に対応し、就職内定率は100.0%を達成しました。

学生募集につきましては、2025年度の入学生計画90名（高校生・既卒生65名、留学生25名）の確保拡大に向けて、前述の「カレッジ再生プロジェクト」を中心に喫緊の最優先課題として学生募集施策強化に取り組みました。具体的には、緻密なマーケティング調査に基づく高校、日本語学校のターゲット設定、SNSやリスティングによるプロモーション戦略強化、リード（学生）とのタッチポイントとしての高校主催進路ガイダンスや合同進学フェアに積極的に参加するとともに、とりわけ最重要タッチポイントであるオープンキャンパスについては、開催時期や設定回数、形態の見直し、開催告知強化による参加促進、説明内容および資料の全面刷新やアンケート内容の改善、HPの随時改修等のPDCAに尽力しました。

その結果、学生募集（出願）に繋がるオープンキャンパスの参加者数は、高校生・既卒生が114名となり、設定目標には達しないものの、前年度比154.1%増となりました。また、留学生は154名となり、計画比106.2%、前年度比205.3%の大幅増となりました。入学選考受験者数については、高校生・既卒生35名（前年度比134.6%、+9名）、留学生63名（前年度比286.4%、+41名）の合計98名、現時点での入学者は、高校生・既卒生が33名（前年度比157.1%、前年度+12名）、留学生は49名（前年度比245.0%、+29名）となり、高校生・既卒生および総数の目標数は達成できなかったものの、合計82

名（前年度比 200.0%、+41 名）、計画比 91.1%となりました。

次に、カリキュラムの改革につきましては再生計画の改革の肝として、まず上期においては既存コースのカリキュラムの抜本的見直しと再構築に取り組みました。

カリキュラムの再構築にあたっては、職業教育を目的とした専門学校として、ツーリズム産業の将来の方向性とそれに向けて求められる人材要件を可視化し、その人材要件を満たすための教育内容をカリキュラムに反映することとしました。その前提として2年間の専門課程の卒業認定と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、何をどの段階でどのようなことを学ぶのかの教育課程策定と実施方針（カリキュラム・ポリシー）を確立するとともに、従来の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を改訂しました。これらのポリシーに基づき具体的なカリキュラムを策定・編成し、2026 年度入学者から全く新しいカリキュラムを実施し、名実ともに“ツーリズムビジネス”の成長発展に貢献する人材の育成を目指す専門学校をスタートさせます。

なお、2025 年度については、現行のカリキュラムをベースとしつつ、新たに整理・策定した考え方を可能な限り反映させて、一部のカリキュラムについての見直し・入替や新たなカリキュラムの導入を行います。

また、下期においては大学生向け・社会人向けの新たなコース・カリキュラムの構築に向けて、上記の各ポリシーとカリキュラムの考え方に基づいて、それぞれのニーズやレベルに応じた具体的なコースとカリキュラムを構築し、2025 年度中の試行的実施と 2026 年度の本格的開講の準備を進めています。

さらに、これらの改革実現を支える基盤整備として、老朽化した校内設備の大幅リニューアルを進めています。各教室等における最新設備完備と利便性の拡充、パブリック施設の充実並びに教職員室の一体化を図ることで、最先端の学習環境の提供、コミュニケーションの強化、学校運営としての業務効率性・労働生産性の向上並びに学校としてのイメージアップ、ブランド力を実現します。

本年 4 月の校名変更と中期経営計画に合わせた「カレッジ価値向上」の取組については、当法人の根幹となる経営理念、JTC コードなどの“JTC クレド”を改訂するとともに、ブランディングの観点からサステナビリティ推進を強力に取り組んでいくこととし、サステナビリティ方針の策定と具体的取組事項・主要 KPI の設定、推進体制を構築し、2025 年 4 月から本格的に運用を開始いたします。

今後は、コロナ禍での厳しい経営環境から脱却し、新たな専門学校モデルの構築にむけた取組を一層加速させるべく、必要な要員を確保し、2025 年度から新たな組織体制を構築することで、戦略の策定と推進機能の向上、組織力の強化を進めて参ります。

以上の結果、今年度の事業活動収支は、事業活動収入（教育活動収入）313,051 千円（前年度比 28.7%、予算差異▲1,670 千円）、事業活動支出（教育活動支出）446,864 千円（同 116.6%、同 12,873 千円）、教育活動収支差額 ▲133,812 千円（同+→▲、同▲14,544 千円）、経常収支差額▲133,320 千円（同+→▲、同▲14,508 千円）、特別収支差額 60,758 千円（同▲→+、同 1,391 千円）、基本金組入額合計▲159,543 千円（同▲→▲、同 1,265 千円）、当年度収支差額▲232,105 千円（同+→▲、同▲11,851 千円）となりました。

2. 教務関連

2024 年度基本方針に基づき「学生募集」、「カリキュラム」、「キャリア支援」を OneJTC として募集・広報活動の強化、ツーリズム産業の発展に貢献できる人材育成カリキュラムの実施、適材適所の人材輩出とを具体的取組事項として実施いたしました。

(1) 学生募集関連

少子高齢化に伴う 18 歳人口の減少、大学進学率の急伸・大学無償化制度に伴う大学全入時代の加速など、外部環境の厳しさが増していく中、日本人受験生・留学生・保護者の関心度を高める募集活動を学校の最優先取組事項として実施して参りました。項番②の 4 つの施策を中心に実施したことで、目標に対して達成率 91.1% (対前年比 200.0%) まで到達しました。

① 学生募集状況

25 年 4 月入学予定者は計 82 名（前年比 200.0%）となります。うち日本人学生は 33 名（同 157.1%）、留学生は 49 名（同 245.0%）となり前年比に対しては堅調に推移していますが、日本人の入学者数が目標達成率 50.8%と次年度の課題となりました。観光総合コース（日本人合同クラス）へ入学する留学生が 5 名（同 250%）と、日本語の堪能な留学生も多く獲得をすることができました。また、昨年度に引き続き卒業生（留学生）からのリファラル（紹介）による出願もありました。なお、「夜間部」の募集においては、期中段階で応募者がなかったため、これまでの入学者数推移を鑑み、昨年度に引き続き募集停止といたしました。

【表1】入学者数の推移

	入学年度	コース	属性	2019	2020		2021		2022		2023		2024		2025	
				実績	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比
昼間部	国際観光ビジネス科	観光総合コース	日本人	157	109	69.4%	68	62.4%	17	25.0%	17	100.0%	15	88.2%	26	173.3%
			留学生	6	1	16.7%	2	200.0%	1	50.0%	3	300.0%	2	66.7%	5	250.0%
		GIコース	日本人	0	29		11	37.9%	2	18.2%	1	50.0%	2	200.0%	3	150.0%
			留学生	0	0		1		0	0.0%	0		2		1	50.0%
			計	163	139	85.3%	82	59.0%	20	24.4%	21	105.0%	21	100.0%	35	166.7%
	国際ホテル&ブライダル科	日本人	22	22	100.0%	3	13.6%	8	266.7%	3	37.5%	4	133.3%	4	100.0%	
		留学生	3	5	166.7%	1	20.0%	3	300.0%	1	33.3%	0	0.0%	5	#DIV/0!	
			計	25	27	108.0%	4	14.8%	11	275.0%	4	36.4%	4	100.0%	9	225.0%
夜間部	国際観光ビジネス訪日科		留学生計	47	43	91.5%	12	27.9%	6	50.0%	0	0.0%	16	#DIV/0!	38	237.5%
	国際観光ビジネスデュアル科	日本人	19	15	78.9%	0	0.0%	7	#DIV/0!	3	42.9%	0	0.0%	0	#DIV/0!	
	国際観光ビジネス科	日本人	0	0		0		0		0		0		0		
	※夜間部は留学生在籍無し		計	19	15	78.9%	0	0.0%	7	#DIV/0!	3	42.9%	0	0.0%	0	#DIV/0!
合計			日本人	198	175	88.4%	82	46.9%	34	41.5%	24	70.6%	21	87.5%	33	157.1%
			留学生	56	49	87.5%	16	32.7%	10	62.5%	4	40.0%	20	500.0%	49	245.0%
			計	254	224	88.2%	98	43.8%	44	44.9%	28	63.6%	41	146.4%	82	200.0%

② 募集活動について

入学者人数達成のため、対して具体的に取り組んだ内容は以下4つの項目です。

1) 市場調査分析とターゲット設定

上期はコンサルティング会社の協力のもと、1都3県の高等学校を“専門学校への進学率”“ツーリズム分野への進学実績”“過去実績”などを基に分類し、電話調査の結果368校をターゲット校としてセグメント化し、高等学校セールス及び進路ガイダンス参加の精度向上を図りました。日本語学校も同様に192校をリスト化し、セールスを実施しました。

下期は作成したリストをベースに、資料請求のあった留学生が所属する日本語学校へのセールスを実施。高校・既卒生についてはメール・LINEや電話を活用しフォローを実施しました。

また、日本語学校の先生に対しての定期的なメルマガ配信も実施をしました。年間を通して、日本語学校へのセールスは実施をし、一定の募集数の成果を出すことはできましたが、高等学校へのセールスが大きな課題となりました。

2) 認知向上、学校説明会誘引のための営業強化

(i) JTB 法人営業チームとの連携

上記ターゲット校で開催される進路ガイダンス参加アプローチについては、JTB法人現業個所と連携し、6月より首都圏49校へセールスしました。また「2024観光甲子園」リーフレットに学校広告を掲載するなど認知度の底上げを図りました。

下期は、2学年向けの進路ガイダンス誘致施策を実施し、年間を通して70件の進路ガイダンスに参加し、そのうち8件を連携施策対象として進路ガイダンス参加に繋げることが出来ました。また、OPEN UNIVERSE PROJECTでの岩谷技研との連携や、「未来探究祭」での学生募集パンフレット配布など、JTBとの業務連携を増やし認知向上を図ることができました。

(ii) Web 広告への出稿

上期はInstagram・Google 広告に加えて、Yahoo・LINE・TicTok・Youtubeと拡大いたしました。また進学決定のキーパーソンとなる保護者を対象にInstagram 広告も新規加重し、訴求強化を図りました。

下期は、26年4月入学者向けのWebサイトを立ち上げ、UXの高いHP構築を目指し、資料請求やオープンキャンパス申込への動線や表示方の修正を実施しましたが、90%以上が離脱してしまう結果となり、次年度の課題となります。Web 広告に関しては、年間を通じた強化施策により、HP表示回数は587,445(前年比134.6%)、セッション数324,289(前年比248.3%)と大幅に増加致しました。

一方、HP総ユーザー数264,042名のうちWeb 広告からの流入が79.9%となり、自然検索割合(10.8%)の増加が課題となっておりますが、下期からマーケティング会社と連携をしながらHPのSEO(Search Engine Optimization)対策、MEO(Map Engine Optimization)対策としてGBP(Google Business Profile)における正確な情報や魅力的なコンテンツの定期的な更新を開始しています。10月以降のインプレッション数とアクション数が増加傾向にあり、施策の効果が徐々に得られていると考えています。

また、6 月より Instagram サブアカウントを開設当校卒業生が学校の日常風景などを中心に投稿を実施しています。現在フォロワー数が 56 名（公式アカウントは 2,470 名）となっています。

(iii) 外部主催説明会、進学フェア参加

外部主催で行われる進路ガイダンス・進学フェアも積極的に参加いたしました。上期は、日本人対象高校生向けガイダンスに 3 会場（水戸・新宿・横浜、昨年 1 会場）、また留学生向け進学フェアも 2 会場（池袋・浜松町に）参加し、タッチポイントの強化・説明会参加誘引に努めました。

上期に続き、11 月上旬にも「留学生向けフェア（浜松町）」にて、2 日間に亘って出展ブースでの説明会に参加しました。2 日間で合計 28 名の留学生とのリアルコミュニケーションを実現し、そのうち 22 名についてコンタクト先の個人情報取得し、イベント後にオープンキャンパス参加へのフォローを実施しました。実際にイベント参加者のオープンキャンパスへの誘引も実施をすることができました。

3) 校内説明会（オープンキャンパス）刷新＋個別フォロー

他校事例や過去 5 年間の参加・申込状況を分析し開催日を計 41（昨年 25 回）設定いたしました。またよりわかりやすく、親しみのある内容となるよう、大幅な見直しを行いました。来校者には巣鴨を体感する地藏通り商店街散策や、巣鴨商店街オリジナル商品券の手交や、るるぶカレーの配布などを実施しました。

下期は各方面で活躍する卒業生にオープンキャンパスへの登壇協力依頼を実施し、パネルトーク形式でツーリズムの仕事の楽しさや厳しさ、学校での学びがどのように現業に生きているかを直接学生へ伝えていただきました。

少人数の予約の際は事前に参加者とコミュニケーションを図り、参加者の要望に合わせた柔軟なオープンキャンパスの運営を実施しました。年間を通したアンケート結果は、9 割以上が「満足」との結果となり（23 年度は満足度調査未実施）、また出願希望率は 58%（23 年度 43.8%）と向上がみられました。

オープンキャンパス参加者をアンケート内容や当日のヒヤリングを基に個別ターゲットリストを作成し、優先度の高い学生へ向けてメールや LINE を活用して個別フォローを実施しました。また年間を通して出願希望率は向上しましたが、出願率は 30.7%と大きくポイントを下げる形となり、出願希望者への個別フォローが次年度への大きな課題となりました。

留学生向けのオープンキャンパスも 9 回開催して計 156 名（前年比 219%）の参加がありました。出願率は 40.3%（前年+8.8%）と堅調でしたが、上期の課題でもあった参加率向上のためにリコンファームを個別に実施をしましたが、56.9%と伸びず、次年度への大きな課題となりました。（※留学生の予約者数 274 名）

4) 2026 年度募集に関する取組

2026 年度募集にむけた学校案内、HP を全面刷新し、早期に告知することとし、複数社との企画見積競合により新たなパートナー企業と連携を開始しました。HP については 2025 年 1 月 14 日（火）、学校案内については同年 1 月 27 日（月）にローンチし、本格的な募集を開始しました（2025 年度募集は 2024 年 3 月下旬にロ

ーンチ)。

また、2026 年度入学選考について、従来のしくみやフローにおける課題を抽出した上で、時代と環境、若者世代の志向の変化等に対応し早期の着実な入学生の確保を図るために、選考形態や入学選考の流れ、内容、手法を改善しました。

- ・エントリー、出願の Web 化による受験者の利便性向上
- ・入学選考形態の一層の多様化（高校、日本語学校における「指定校」設定と指定校推薦入試」の設定）
- ・留学生の入学選考日程の早期化（10 月開始を 9 月開始に前倒し）
- ・日本人・留学生の入試選考日程の延長（大学受験との併願受験結果による進路変更への対応）

【表 2】広報・説明会等の実施状況

対象	内容	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
広報	資料請求		7,916件		6,983件		88.2%	7,288件		104.4%	5,969件		81.9%	5,819件		97.5%	7,075件		121.6%
	HP総ユーザ数		76,995人		71,393人		92.7%	63,629人		89.1%	58,519人		92.0%	76,571人		130.8%	264,042人		344.8%
	スマホユーザ数		53,727人		51,021人		95.0%	32,718人		64.1%	34,107人		104.2%	34,107人		100.0%	228,319人		669.4%
	スマホ利用率		69.8%		71.5%		+ 1.7%	51.4%		+ 49.7%	58.3%		+ 8.5%	44.5%		+ 36.0%	86.5%		+ 50.5%
日本人	オープンキャンパス	延参加者数	604人		242人		40.1%	145人		59.9%	154人		106.2%	94人		61.0%	146人		155.3%
		実参加者数	420人		137人		32.6%	92人		67.2%	80人		87.0%	74人		92.5%	114人		154.1%
		出願者数	153人		91人		59.5%	37人		40.7%	28人		75.7%	26人		92.9%	35人		134.6%
		出願率	36.4%		66.4%		30.0%	40.2%		▲ 26.2%	35.0%		▲ 5.2%	35.1%		0.1%	30.7%		▲ 4.4%
	進路ガイダンス	実施回数	59回		37回		62.7%	96回		259.5%	114回		118.8%	125回		109.6%	70回		56.0%
		参加者	360人		267人		74.2%	626人		234.5%	630人		100.6%	799人		126.8%	470人		58.8%
留学生	オープンキャンパス ※個人面談含む	実参加者数	166人		59人		35.5%	18人		30.5%	37人		205.6%	71人		191.9%	156人		219.7%
		出願者数	57人		17人		29.8%	10人		58.8%	4人		40.0%	22人		550.0%	62人		281.8%
		出願率	34.3%		28.8%		▲ 5.5%	55.6%		+ 26.7%	10.8%		▲ 44.7%	31.0%		+ 20.2%	39.7%		+ 8.8%

③ 募集の課題と今後の活動展開について

1) Web プロモーション

- ・ 広告会社との連携による戦略的な広報、マーケティングの実施
- ・ SEO 対策による自然検索順位の向上
- ・ SNS 広告、リスティング広告による HP への集客
- ・ GA4 を活用した Web マーケティングの実践
- ・ SNS 連携チームによる定期的な発信による認知拡大（親しみやすい学生目線の投稿）

2) セールス体制の強化

- ・ 高等学校及び日本語学校のターゲット校へのセールス活動の徹底強化（教務部内連携）
- ・ JTB の法人連携施策による進路ガイダンスの出展強化及び登壇の依頼
↳ 高校 1 年生へ向けたツーリズム業界の認知拡大

3) オープンキャンパス参加学生の体験価値向上

- ・ 卒業生の定期的な登壇で満足度を高めることによる出願率の向上
- ・ 参加後の優先順位の高い学生への個別フォローの徹底による出願率の向上

- ・ 予約学生への個別リコンファームを実施することによる参加率の向上
- ・ 参加後アンケートを元に学生に高評価だった内容へ定期的に改善を実施

(2) 教務・学生指導関連

コロナ禍終焉に伴うマーケットの回復により、産学連携による授業や地域イベントへの体験機会が増え、学生の知見が広がるとともに創造力の向上に繋がりました。また学年学科横断による学校行事や授業を拡充することで、コミュニケーションの向上や多様性の理解、学びの相乗効果をもたらすことができました。

重点課題といたしましては、以下の2点に取り組んでまいりました。

ツーリズム業界での活躍のための最先端かつ高品質なカリキュラムの構築

- ・ 業務の効率化と業界の人材不足の緩和につながる「RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）設計」を新設し、RPA ツールを実際に体感しながらのデジタル活用実践教育を実施しました。今後も企業のデジタルリテラシーの底上げに寄与するデジタル活用人材の育成を目指す授業として継続してまいります。
- ・ 「観光キャリアプランニング」ではキャリアデザインの観点から業界を深掘りし、進路を自ら考え選択する主体的な思考が醸成される授業へとブラッシュアップいたしました。

JTB グループの強みを活かしたリソース活用と産学連携の取り組み

- ・ 「観光メディア論」では JTB、池袋東口観光案内所（JCD）と豊島区文化商工部と連携し、フィールドワークを通して地域の魅力を企画提案、また観光アプリを活用した SNS マーケティングについても学び、観光需要創出とメディア活用の重要性を実践的に学びました。
- ・ 東京観光財団（TCVB）の「学生インターンシップ事業」に採用され、港区観光協会へ派遣されました。また（一社）次世代教育ネットワーキング機構主催「未来探究祭」にはイベントスタッフの一員として JTB 社員とともに運営を担いました。
- ・ 「データマーケティング講座」では昨年に続き、巣鴨信用金庫、地蔵通り商店街協力のもと「巣鴨地蔵通り商店街活性化」をテーマとした研究を実施し、上位2チームが（一社）ビックデータマーケティング教育推進協会主催の成果発表会に出場。12 チーム中、2 年振りの入賞、かつ優勝、準優勝を獲得いたしました。

今後もこのようなアウトプットの機会を積極的に取り入れ、課題解決力、価値創造力の育成に努めてまいります。

具体的な年間動向および成果については以下のとおりです。

① 学生動向について

今年度は新1年生40名（昨年29名）を迎え、学生総数66名（昨年64名）でスタートしました。期中における1年生退学者は4名で、次年度の新2年生は36名となりました。

学生の在籍者推移は【表3】、また学科別の在籍者推移は【表4】のとおりです。

退学の理由としては新入生の生活環境変化による心身を含む体調不良や、留学生の中途入社によるものなどがあげられます。個々の学生に合わせた丁寧な対応を今後も継続して取り組み、退学率低下を目指してまいります。

【表3】 学生在籍者推移

[単位:人]

	2024 年度	1年生	2年生	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度
期首在籍数 (復学者)	66 (0)	40 (0)	26 (0)	64 (0)	134 (1)	304 (8)	449 (10)
退学者	6	4	2	4	11	7	33
期中休学	0	0	0	0	0	1	4
期中復学	0	0	0	0	0	1	1
期末在籍数	60	36	24	60	123	297	413
退学率	9.1%	10.0%	7.7%	6.3%	8.2%	2.3%	7.3%

【表4】学科別・学生在籍者数推移 [期首]

[単位:人]

	2024 年度	1年生	2年生	2023 年度	1年生	2年生	2022 年度	1年生	2年生
国際観光ビジネス科	39	20	19	40	21	19	95	20	75
訪日科	16	16	0	5	0	5	17	6	11
国際ホテル&ブライダル科	9	4	5	12	5	7	15	11	4
夜間部	2	0	2	7	3	4	7	7	0
期首在籍数	66	40	26	64	29	35	134	44	90

② 国家資格およびその他各種資格の取得について 【表5】【表6】【表7】

国内旅行業務取扱管理者試験合格者数（以下、国内）10名、うち1年生の全科目合格者は9名となりました。合格率は50%（全国平均31.4% +18.6ポイント）で、目標の70%未達となりました。総合旅行業務取扱管理者試験合格者数（以下、総合）6名のうち1年生の合格者は5名、合格率27.8%（全国平均13.2% +14.6ポイント）、個々人に合わせた個別指導により合格率は昨年を若干上回りましたが、目標の40%に到達しませんでした。出題傾向と学生の弱点、資質を見極めながら、次年度は目標の合格率達成を目指してまいります。

その他各種検定試験の合格状況は【表7】のとおりです。5年目受験を迎えた国家資格「ホテルマネジメント技能検定」3級につきましては、筆記試験、実技試験とも合格者を出すことができませんでした。「レストランサービス技能検定試験」3級、「ブライダルコーディネーター技能検定」は5名中それぞれ1名合格いたしました。その他日本添乗サービス協会主催「インバウンド検定」には留学生6名が合格いたしました。学びの成果となる検定、資格取得は自身の強みとなり、今後も継続して取り組んでまいります。

【表5】総合旅行業務取扱管理者資格 合格者推移

[単位:人]

区分		2024年度				2023年度				2022年度			
		合格者	前年増減	合格率	受験者	合格者	前年増減	合格率	受験者	合格者	前年増減	合格率	受験者
全科目	観光科1年	5	▲1	27.8%	18	4	▲5	20.0%	20	9	▲9	47.4%	19
	全国結果	279	112	13.2%	2,112	167	▲111	7.9%	2,102	278	103	13.5%	2,064
他	他1年生	0	▲1	#DIV/0!	0	1	▲1	50.0%	2	2	2	40.0%	5
	2年生他	1	▲4	10.0%	10	5	▲5	50.0%	10	10	▲1	30.3%	33
JTC 計 (ウチ留学生)		6 (2)	▲4 (+1)	21.4%	28	10 (1)	▲11 (+1)	31.3%	32	21 (0)	▲8 (+0)	36.8%	57

【表6】国内旅行業務取扱管理者資格 合格者推移

[単位:人]

区分		2024年度				2023年度				2022年度			
		合格者	前年増減	合格率	受験者	合格者	前年増減	合格率	受験者	合格者	前年増減	合格率	受験者
全科目	観光科1年	9	▲5	50.0%	18	14	2	70.0%	20	12	▲39	66.7%	18
	全国結果	3,181	165	31.4%	10,141	3,016	274	35.7%	8,458	2,742	▲1,313	32.9%	8,343
他	他1年生	0	▲1	#DIV/0!	0	1	▲2	33.3%	3	3	2	60.0%	5
	2年生	1	▲1	20.0%	5	2	▲3	50.0%	4	5	0	29.4%	17
JTC 計 (ウチ留学生)		10 (3)	▲7 (▲1)	43.5%	23	17 (4)	▲3 (▲1)	63.0%	27	20 (5)	▲37 (+0)	50.0%	40

【表7】各種検定試験 合格者推移

[単位:人]

資 格	2024年度	増減	2023年度	増減	2022年度	増減
	年度		年度		年度	
旅行地理検定日本上級	0	0	0	▲1	1	0
旅行地理検定日本中級	3	▲1	4	2	2	▲21
旅行地理検定世界上級	0	0	0	▲1	1	▲1
旅行地理検定世界中級	1	▲2	3	2	1	▲4
ビジネス能力検定2級	7	▲3	10	▲1	11	11
ビジネス能力検定3級	6	3	3	▲10	13	8
パソコン検定2級	9	▲3	12	0	12	▲15
パソコン検定1級	0	0	0	▲2	2	0
世界遺産検定2級	2	0	2	▲4	6	▲6
実用英語技能検定2級	0	0	0	▲2	2	▲5
秘書検定2級	0	▲1	1	▲3	4	▲5
秘書検定準1級	0	▲1	1	0	1	1
ホテルマネジメント技能検定3級※	0	▲1	1	1	0	▲8
レストランサービス技能検定3級※	1	▲2	3	0	3	▲13
ブライダルコーディネート技能検定	1	▲3	4	1	3	▲13
旅のユニバーサルデザインアドバイザー	13	▲3	16	▲2	18	▲53

※国家資格

③ 実習・研修プログラム・の実施状況について【表8】

校内での講義以外に、基礎的な旅行・観光関連実務の体得を目的とした学外実習や研修を、学科別にカリキュラムに織り込み、効果的な専門能力の養成に努めております。国際観光ビジネス科2年の企業実習は業界バリューチェーンを意識した1人2箇所派遣を全員に設定しました。また昨年からは海外研修、海外支店実習を再開し、海外渡航未経験の学生をはじめ多くの学生が、直接異文化に触れ、新たな視野拡大となる機会に繋がりました。

【表8】学科別 実習・研修実施状況

学科	対象	種別	内 容	実施時期	備 考
国際観光ビジネス科	1年	必修	① 校外学習	11月	羽田空港見学(訪日科、HB科合同)
	1年	必修	② 国内研修旅行	11月	沖縄2泊3日
	1年	選抜	③ 海外支店実習	2～3月	シンガポール・クアラルンプールにて実施(3名選抜)
	2年	必修	④ 国内支店実習	7～8月	店舗+JTBG、内定先ホテル、観光案内所(港区・池袋東口)にて実施(1か月)
	2年	必修	⑤ 海外研修旅行	12月	シンガポール3泊5日
訪日科	1年	必修	① 校外学習	7月	巣鴨地蔵通り商店街盆踊り
	1年	必修	② 校外学習	7月	鎌倉日帰り研修
	1年	必修	③ 校外学習	9月	巣鴨大塚天祖神社神輿
	1年	必修	④ 国内研修旅行	11月	日光1泊2日
国際ホテル科 & ブライダル科	1年	必修	① 国内宿泊見学	7月	東京(都内ホテル)1泊2日研修
				2月	横浜1泊2日
	1年	必修	② 国内宿泊実習	夏期	首都圏近郊4施設にて実施
				冬期	3施設にて実施(都内・箱根)
	2年	必修	③ 海外研修旅行	11月	台北2泊3日
夜間部	2年	必修	デュアル実習	前期	JTBガイアレック、TPI
	2年	必修	デュアル実習	後期	ホテルニューオータニ

④ 特別講師による授業の実施状況について【表9】【表10】

職業意識の醸成を目的として1年生を対象とした「クローズアップ(業界・企業)」、変化するツーリズム産業における業界動向の理解を目的として2年生を対象とした「クローズアップ(ネクストステージ)」、他業界含め現場の最前線で活躍しているプロフェッショナルな方々から、経験談を踏まえてホスピタリティの本質を語っていただく「ホスピタリティ講座」は今年度も多くの企業、関係者に多大なる協力を仰ぎ、受講者が具体的な行動に移せるような機会の創出となりました。

【表9】クローズアップ講師派遣協力機関

科目名	講師派遣協力機関
クローズアップ (業界・企業)	・JTB ・JTBグローバルマーケティング & トラベル ・JTBビジネストラנסフォーム ・JTBビジネストラベルソリューションズ ・JTB商事 ・JTBトラベルプラザインターナショナル ・JCBトラベル ・西武・プリンスホテルズワールドワイド ・はとバス ・日の丸自動車興業 ・小田急リゾーツ ・ひらまつ ・にしけい ・関東運輸局 観光課連携(藤田観光・ホテルニューオータニ)
クローズアップ (ネクストステージ)	・JTB - ツーリズム事業本部 - エリアソリューション事業部 - ビジネスソリューション事業本部 - グローバル統括本部 (ALL JTB AWARD表彰個所 7個所含む)

【表10】ホスピタリティ講座講師派遣協力機関

科目名	講師派遣協力機関														
ホスピタリティ 講座	<table> <tr> <td>JTB代表取締役社長</td><td>グランドニッコー東京台場</td></tr> <tr> <td>JTBお客様相談室</td><td>ホテル一井</td></tr> <tr> <td>JTBデータサービス</td><td>フェイスアップ</td></tr> <tr> <td>JTBWeb販売事業部</td><td>日本エコツーリズム協会</td></tr> <tr> <td>CXコンサルティング</td><td>株式会社ティア</td></tr> <tr> <td>流通科学大学</td><td>株式会社タンタビーバ</td></tr> <tr> <td>巣鴨信用金庫</td><td></td></tr> </table>	JTB代表取締役社長	グランドニッコー東京台場	JTBお客様相談室	ホテル一井	JTBデータサービス	フェイスアップ	JTBWeb販売事業部	日本エコツーリズム協会	CXコンサルティング	株式会社ティア	流通科学大学	株式会社タンタビーバ	巣鴨信用金庫	
JTB代表取締役社長	グランドニッコー東京台場														
JTBお客様相談室	ホテル一井														
JTBデータサービス	フェイスアップ														
JTBWeb販売事業部	日本エコツーリズム協会														
CXコンサルティング	株式会社ティア														
流通科学大学	株式会社タンタビーバ														
巣鴨信用金庫															

(3) 進路指導関連

2025年3月卒業生のうち、日本人学生の就職希望者19名、留学生就職希望者2名、計21名が全員採用内定となり、就職内定率100%（日本人4年連続、留学生3年連続）を達成しました。

今年度も、市場の完全回復による売り手市場は継続し、各企業の採用スケジュールも予想通りの早いスタートとなりました。対象学生には、幅広いツーリズム産業界の理解とキャリア開発の2軸に力点を置き、授業と関連させながら就職活動へ結びました。新たな取り組みとして東京都とリクルートブライダル総研と連携した「ライフデザインセミナー」を実施し、自分の人生設計の一部として就職活動を考え、視野拡大を図る機会となりました。一般化されたオンライン面接も、校内面接訓練の1つとして定番化いたしました。

また、駿台トラベル&ホテル専門学校と合同のグループディスカッションおよび合同面接練習を実施し、他者から学び、他者意見への傾聴力、自身の考えを表現する力を培う機会となりました。

日本人学生、留学生を併せた 21 名の就職内定先は、【表 12】の通りです。

旅行関連会社への内定者 6 名（全体構成比 28.6%、前年実績比▲12.5%）、運輸・空港サービス・警備関係は 5 名（全体構成比 23.8%、実績比+3.2%）、宿泊・料飲関係は断続的な求人により、12 名（全体構成比 47.6%、実績比▲12.3）となりました。

なお 43 期生（現 1 年生）対象の校内企業説明会を 12 月より開始しております。ご協力をいただいた企業は、【表 11】のとおりです。

【表11】校内企業説明会実施状況(2025年3月分まで)

JTB	ミリアルリゾートホテルズ
JCBトラベル	ホテルオークラ東京
JTBビジネストラベルソリューションズ	東海旅客鉄道株式会社
JTBビジネストラנסフォーム	JALグランドサービス
JTBグローバルアシスタンス	JALナビア
JTB商事	
JTBガイアレック	
I&Jデジタルイノベーション	
JTBグローバルマーケティング&トラベル	
JTB協定旅館ホテル連盟合同説明会(12施設)	
①ホテル一井②ホテル櫻井③ホテルヴィレッジ	
④ホテルサンバード⑤ホテルおかだ⑥富士屋ホテル⑦おんやど恵	
⑧喜久多⑨ホテルかずさや⑩KPG⑪はいむるぶし⑫KANAYA RESORTS	

【表12】2024年度卒業生(第42期生) 就職活動状況及び内定先一覧

	総 数	就職希望者数	内定者数	未内定者	内定率	前年就職者数	
日本人学生	22 人	19 人	19 人	0 人	100.0%	25 人	*印は 留学生採用企業
留 学 生	2 人	2 人	2 人	0 人	100.0%	9 人	*印は 新規採用企業
計	24 人	21 人	21 人	0 人	100.0%	34 人	

●JTグループ企業 構成比 28.6% ← 38.2%

	企 業 名	人数	増減	41期
1	JTB	1	▲ 2	3
2	JTBビジネスストラiform	1	▲ 2	3
3	JTBガイアレック	1	± 0	1
4	I&Jデジタルイノベーション	1	▲ 1	2
5	JTB商事	1	+ 1	0
6	JCBトラベル	1	+ 1	0
7	その他	0	▲ 4	4
	計	6	▲ 7	13

●その他旅行会社 構成比 0.0% ← 2.9%

	企 業 名	人数	増減	41期
1	その他	0	+ 1	1
	計	0	▲ 1	1

●運輸関係 構成比 4.8% ← 8.8%

	企 業 名	人数	増減	41期
1	首都圏新都市鉄道	1	+ 1	0
2	その他	0	▲ 3	3
	計	1	▲ 2	3

●空港サービス、警備関係 構成比 19.0% ← 11.8%

	企 業 名	人数	増減	41期
1	JALグランドサービス	1	▲ 1	2
2	羽田空港サービスグループ	1	+ 1	0
3	羽田エアポートエンタープライズ	1	+ 1	0
4	スイスポーティブ	1	+ 1	0
5	その他	0	▲ 2	2
	計	4	± 0	4

●宿泊・料飲関係 構成比 47.6% ← 35.3%

	施設名(企業名)	人数	増減	41期
1	ミリアルリゾートホテルズ	2	+ 2	0
2	新宿東急ホテルズ	1	± 0	1
3	* 京王プラザホテル	1	+ 1	0
4	ホテル椿山荘東京	1	+ 1	0
5	シェラトン都ホテル東京	1	+ 1	0
6	三菱地所ホテルズ&リゾーツ	1	+ 1	0
7	* 西武プリンスホテルズ・ワールドワイド	1	+ 1	0
8	ホテルサンバード	1	+ 1	0
9	ザ・テラスホテルズ	1	+ 1	0
10	その他	0	▲ 11	11
	計	10	▲ 2	12

●その他 構成比 0.0% ← 2.9%

	企 業 名	人数	増減	41期
1	その他	0	▲ 1	1
	一般企業就職者 計	0	▲ 1	1

●大学編入・進学

	企 業 名	人数	増減	41期
1	江戸川大学 社会学部 現代社会学科	1	+ 1	0
2	産業能率大学 通信教育課程	1	+ 1	0
	大学編入・進学 計	2	+ 2	0

第42期生 就職内定者計

21 名

3. 総務・財務関連

(1) 収支バランスの維持と経営基盤の安定化

事業活動収入については 2021 年度から続いている入学者減少が、やや持ち直し学生納付金が 86 百万円となりました。教育活動収入では前期の(株)JT B からの受配者指定寄附金の一部を私学振興事業団より収受し計上したことにより 3 億 13 百万円となりました。なお、受配者指定寄附金については設備投資見合として 62 百万円を特別収入に計上しています。

事業活動支出では、各セクションで収支管理を実施しながら、前期に続き 2025 年度入学者の確保に向け広報戦略を強化しました。設備投資においては、老朽化した学校設備について改装を行い、学校ブランドの向上を図りました。

結果、事業活動収支差額については 72 百万円の支出超過となりました。

基本金につきましては、1 階改装工事での新規資産取得により、16 億 83 百万円となりました。

なお、過去 5 年間を含めた事業活動収支状況、及び基本金の推移は【表 13】のとおりです。

【表 13】事業活動収支状況、及び基本金の推移

[単位：千円]

	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
事業活動収入	375,693	1,091,556	177,203	399,982	562,679	551,865
事業活動支出	448,255	383,557	416,894	495,880	564,379	550,837
事業活動収支差額	▲ 72,562	708,000	▲ 239,691	▲ 95,897	-1,700	1,027
翌年度繰越収支差額	399,387	631,493	▲ 47,367	198,906	295,805	298,784
前年良否	▲ 232,106	+ 678,860	▲ 246,273	▲ 96,899	▲ 2,979	▲ 4,809
前年対比	63.2%	▲→+	+→▲	67.2%	99.0%	98.4%

基 本 金	1,683,021	1,523,477	1,494,337	1,487,756	1,486,753	1,485,475
前年度増減	159,544	29,140	6,581	1,002	1,278	5,837
前年度末対比	110.5%	102.0%	100.4%	100.1%	100.1%	100.4%

(2) 設備投資状況

第 4 四半期に ①図書室の一新による新たな学生コミュニケーションスペースの設置 ②教員・職員の一体的な業務執行を企図した改装 ③ 1 階女子トイレ部分へのユニバーサルトイレ設置 を行いました。なお、学校のブランド力向上に向けた、改装は 2025 年度以降についても、段階的に実施する予定です。

このほか校内の監視カメラ、キーボックスなど老朽設備の更新、ファイアウォール機器更新を実施しております。

(3) 学校経営の中長期的安定化を見据えた経営課題への対応

経営基盤安定のための収入の増加、現行では学生数増加は喫緊の課題であり、優先度の高い募集広報活動に対して **WEB** 戦略を中心に積極的な投資と、進学フェアなど積極的な露出を行いました。この取り組みに対しての進捗は経営改革担当理事が先頭に立って管理をしてまいりました。

加えまして、カレッジ再生のためのプロジェクトを編成し、毎週議論を続けております。

① 柔軟な組織体制への変革

引き続き、ローコストでの学校運営を目指し少人数での運営を継続する一方で学生募集要員を採用し強化するなど、メリハリある組織運営をいたしました。

また、今後の成長のためのプロジェクトでは外部有識者に参加いただくなど、内製化にこだわらない方針で業務を実行しています。

② 学習・就業環境の整備とデジタルイゼーション

引き続き、Google が提供するアプリケーション (Form、Drive) の授業や業務での活用を推進し、紙文化・現物文化からの転換を進めています。

執務環境もモバイル化を進め、多様な勤務スタイルを目指しています。

次年度は従前踏襲のフロー見直し、棚卸を進めて、教務や後方業務のトランスフォーメーションを図ります。

4. 横断プロジェクト関連

今年度は、喫緊の課題である学校経営の再建に向けて、経営層自らが牽引し、組織を横断する2つのプロジェクトを立ち上げて推進を図りました。プロジェクトでの取組内容と進捗については以下の通りです。

(1) カレッジ再生プロジェクト

① 設置目的

2025 年度以降の収支改善と新たな専門学校モデルの構築

② 運営方針

設置目的に資するテーマについて、緊急性と即効性のある取組みを具体的かつ迅速に着手し、進捗を確認しながら柔軟に軌道修正や加速度的強化を行う

③ テーマ

ア. 既存コースの募集に関する施策強化 (日本人高校生、留学生対象)

イ. 施設及びインフラの整備・充実

ウ. 既存コースのカリキュラム内容及び運営方の見直し

エ. 新設コースの設置と適切なカリキュラム内容並びに運営方の構築

オ. 新設コースの募集に関する施策

④今年度の開催期間および回数

2024年4月1日～2025年3月31日、原則として週1回開催
(通算51回、今年度40回)

⑤メンバー

PJT オーナー兼 PJT マネージャー、PJT リーダー、PJT アドバイザーはじめ当校教職員、JTB 霞が関事業部や JCD 等の JTB グループ各社員、大学教授(有識者)

(2) カレッジ価値向上プロジェクト

①設置目的

新たな専門学校モデルのブランド構築、サステナビリティ推進

②運営方針

新校名への期待、選ばれる専門学校になるためのブランド構築と学生及び教職員の行動変容を促すサステナビリティ推進体制を、再生プロジェクトとは別軸で策定し、実行に繋げる。

③テーマ

- ・新ブランドイメージの検討・設計
- ・サステナビリティ推進体制の確立

④今年度の開催期間および回数

2024年4月1日～2025年3月31日(通算28回)

⑤メンバー

PJT オーナー兼 PJT マネージャー、PJT リーダー、当校教職員

各プロジェクトの今年度取組の詳細および次年度取組の方向性については、別紙資料をご参照ください。

5. その他

(1) 要員体制について

	常勤教職員・役員						専門講師 (非常勤)	合計
	校長 (理事)	理 事	教務職員	事務職員	派遣職員	計		
2024年度期首	1 名	1 名	12 名	9 名	1 名	24 名	28 名	52 名
2024年度期末	1 名	1 名	12 名	12 名	1 名	27 名	28 名	55 名

※ その他、理事長1名(非常勤)、学校医1名(非常勤)、保健師1名(非常勤)

(2) 評議員会・理事会の開催状況について

【評議員会】

回	開催日		議案、議事内容
第1回	2024/5/22	諮問事項	1. 2023年度 事業報告及び決算に関する件
			2. 寄附行為の変更に関する件
		決議事項	3. 議事録署名人の選任に関する件
第2回	2025/3/26	報告事項	1. 2024年度 学校運営概況に関する件
		諮問事項	2. 2024年度 予算改定に関する件
			3. 2025年度 学校運営計画及び予算案に関する件
			4. 寄附行為の一部改訂に関する件
			5. 私学法改正による規程類等の改訂に関する件
		決議事項	6. 評議員の補欠選任に関する件
			7. 議事録署名人の選任に関する件

【理事会】

回	開催日		議案、議事内容
第1回	2024/5/22	決議事項	1. 2023年度 事業報告及び決算に関する件
			2. 寄附行為の変更に関する件
			3. 議事録署名人の選任に関する件
第2回	2024/11/26	報告事項	1. 2024年度 上期学校運営概況に関する件
			2. JTCクレドの改訂に関する件
		決議事項	3. 学則の一部改訂に関する件
			4. 校内設備投資に関する件
			5. 議事録署名人の選任に関する件
第3回	2025/3/12	報告事項	1. 組織体制の再構築に関する件
		決議事項	2. 評議員の推薦に関する件
			3. 議事録署名人の選任に関する件
第4回	2025/3/26	報告事項	1. 2024年度 学校運営概況に関する件
			2. JTC教育理念の改訂ならびに理念体系の再構築に関する件
		決議事項	3. 2024年度 予算改定に関する件
			4. 2025年度 学校運営計画及び予算案に関する件
			5. 寄附行為の一部改訂に関する件
			6. 職務権限基準および規程類等の改訂に関する件
			7. 議事録署名人の選任に関する件

以上